

の英文に対して Comprehension の問題（速読，内容把握）だけでなく，Intensive Reading（精読）の問題も用意されており，加えて文法問題も含まれている。全部で27回分の課題を行い，英語Ⅱの教科担任が課題の提出状況をチェックしてきた。課題提出率は80パーセント以上であり，多くの生徒が地道に努力している。この課題により，総読書量を増やすとともに，語彙力や正確に読む力を向上させることを狙ってきた。しかし，速読に比べてこちらの方が個人の取り組みの差が大きかった。こちらでも生徒の動機付けをいかに高めていくかが課題である。

④ 効果的なリスニング能力を高める指導法の研究

・実施内容と課題

- ア 英語Ⅰの授業においてディクテーションを行った。重要語句を書き取らせる設問を行ったが，単に書き取るだけの訓練になってしまった。より効果が上がるよう与え方等を工夫する必要がある。
- イ 英語Ⅱの授業において各レッスンが始まる前と終了後にディクテーションを実施した。予習・復習を各自が欠かさず行い，授業を大切する姿勢・態度の育成を目的として行った。成果としては，授業以外の時間においても積極的に英語に関わろうとする意欲的な生徒の数が増えてきている。

⑤ 国際理解教育（異文化理解）をテーマにした「総合的な学習の時間」を通して生徒の英語学習に対するモチベーションを高める研究

(1) 「English Day」の実施

・実施内容

「総合的な学習の時間」が割り振られている木曜日を「English Day」とし，朝の始業前や休憩時間・昼休み・「総合的な学習の時間」に友人や先生と積極的に英語で会話をするように工夫した。

「English Day」の活動をより積極的に行えるよう，当日の課題となる中心的な会話を設定し，それを印刷したプリントを配布した。このプリントは職員室前に用意し，各クラスの国際教育委員が当日の朝取りに来て，朝のうちにクラスで配布するようにした。プリントには「Today's Expressions」（*資料8）とともに「Evaluation Form」（*資料8）の部分を設け，当日の活動に対する生徒本人の自己評価，生徒同士の相互評価，担任による総合的な評価ができるように工夫した。

「English Day」の朝，始業前に校内放送で英語の音楽を流し，ALT と外国人講師を中心にネイティブの英語でメッセージを伝え，この日が「English Day」であることを生徒に印象付けた。また，昼食の時間帯にも当日の「Today's Expressions」を ALT と外国人講師を中心にネイティブの英語で放送し生徒のモチベーションを高めるよう工夫した。

更に，昼休みには ALT と外国人講師を中心に各ホームルームを回り，昼食中の生徒に，当日の「Today's Expressions」を中心とした英語による問いかけをした。

・成果

最初のころには，昼食中に英語で話しかけられると教室から逃げ出す生徒もいたが，活動を続けているうちにネイティブの先生に話しかけられても，逃げ出さずに会話をする生徒が見受けられるようになっていった。また，簡単な挨拶の表現などは突然話しかけられても自然に受け答えができるようになってきた生徒が多く見受けられるようになった。

*資料8 「English Day！」

(2) 「International Day」（クラス毎の講演会）の実施

・実施内容

本年度は，生徒に対し直接的な異文化体験をさせたいという考えから，全校生徒や学年毎の講演会ではなく，クラス毎の講演会を企画し実施した。国際協力機構筑波国際センターの協力で東南アジアからの留学生を紹介していただき，筑波大学大学院で学ぶインドネシアの留学生3名，バングラデシュの留学生2名，ラオスの留学生1名の計6名を迎え「International Day」を実施した。この6名が1年生，2年生の各教室で1時間ずつ，パワーポイントを使って，それぞれの国の文化，歴史，言語について英語でプレゼンテーションを行った。

・成果

この日のアンケート結果（*資料9）では，「留学生の話に興味深く聞くことができましたか」という質